

平成22年度宮城県産業教育審議会 会議録

1 日 時 平成22年12月17日(金) 午後1時30分から午後3時30分

2 会 場 県庁4階 特別会議室

3 出席者 委員12名中 7名出席

大泉 一貫 委員 間庭 洋 委員 上野 正道 委員
本図 愛実 委員 橋本 榮一 委員 吉田 祐幸 委員
白石喜久夫 委員

(事務局)

教育長 教育次長 教育次長

教育企画室室長 高校教育課長

高校教育課副参事兼課長補佐 高校教育課課長補佐

教育企画室教育改革班長 高校教育課キャリア教育班長

高校教育課改革推進班長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 開会の挨拶 宮城県教育委員会教育長

(3) 会長及び副会長の選出

(4) 報告

① 平成21年度産業教育審議会の内容について

② 県内の専門高校・専門学科の状況について

③ 新県立高校将来構想・第1次実施計画について

④ 登米地区総合産業高校について

⑤ 高校教育改革の成果に関する検証について

⑥ 志教育について

(5) 議事

① これからの専門学科・専門高校の方向性について

② 平成23年度宮城県産業教育審議会の日程について(案)

(6) 閉会

5 議事録

教育長挨拶

教育長の小林でございます。審議会の開催にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。委員の皆様には日ごろから本県産業教育の充実のために、様々な御支援御協力をいただいておりますことに、心より感謝を申し上げます。また、本日は御多忙のところ御出席を賜りお礼を申し上げます。

さて、本県では、本年3月に平成23年度からの10年間を計画期間とします新県立高校将来構想を策定しましたが、同時に公表いたしましたその第1次実施計画の中で、平成27年度に登米地区に新しいタイプの高校として、総合産業高校を設置することといたしました。これは、昨年度本審議会におきまして複数の専門学科を有する専門高校について様々な角度からいただいた御意見をベースに具体化したものでございます。また、関連して、本年8月からは県立高校将来構想審議会におきまして、これまでの高校教育改革の様々な施策の成果や課題について検証する段階に入っております。テーマの一つに専門教育と普通教育の在り方がございます。この検証にあたりましては、本審議会からの御意見も参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

また、専門高校がこれまで取り組んでまいりましたクラフトマン21事業やデュアルシステムなどを通して、生徒が企業や社会と関わることの有用性についても確認されているところでありまして、そうしたことも踏まえ、この3月に策定した宮城県教育振興基本計画の中では、重点的取組みの一つとして小・中・高等学校を通じた志教育の推進を掲げたものでございます。この内容につきましては、後ほど御紹介をさせていただきます。

一方で、近年の経済状況の急速な変化により雇用形態が多様化いたしますと共に、本県におきましては、ものづくり企業の立地が進み、産業構造も大きく変わりつつあります。こうした産業界の動向やニーズを踏まえまして、専門高校における職業教育の一層の改善や充実を図ることが求められています。こうした中で、本審議会におきまして今後の産業教育の在り方について、様々な角度から御意見を頂戴することは極めて重要なことであると考えております。

本県における産業教育の更なる充実のために、委員の皆様には是非とも忌憚のない御意見を賜りますようお願いを申し上げます。大変簡単ですが御挨拶とさせていただきます。皆様よろしく願いいたします。

【報告】次第の(4)の①から

議長：①の平成21年度宮城県産業教育審議会の内容及び②の県内の専門高校・専門学科の状況について事務局よりお願いします。1から13まで資料がございますが、能率的に進行をしていきたいと思っておりますので、御協力をお願いします。

まず、報告①の平成21年度宮城県産業教育審議会の内容について、及び②の県内の専門高校専門学科の状況について事務局よりお願いします。

事務局：簡単に御説明、御報告をさせていただきます。①の平成21年度宮城県産業教育審議会については資料2-3、4ページになります。昨年は平成21年10月29日に開催しております。はじめに平成20年度宮城県産業教育審議会の提言「今後の専門学科のあり方」について御報告いたしました。提言の内容は、「地域づくりと産業教育について」、「これからの専門高校の学科構成について」、「長期的視野に立った今後の専門高校のあり方について」という内容でした。そのあと、県立高校将来構想審議会答申であります「新たな県立高校将来構想について」を御説明した後、議事として「それぞれの学科の連携による新たな教育について」「複数の専門学科を有する専門高校について」「特定分野の専門的な教育を行う学科について」の3点について本県の取組内容や全国の様子などを説明したあと御意見をいただきました。

主な意見としては、県立高校将来構想では普通高校と産業教育のバランスについても踏み込む必要があるのではないか、間口を広げるいろいろなコースを学べる教育もあるし、一つのことを徹底してスペシャリストを育てるパターンがあり、教育の仕方としては永遠につきまとう課題であるというお話もいただきました。複数の学科を並べるだけでなく学科間での融合や連携したカリキュラムづくりが大切である。介護福祉士の資格取得を目指すためにも、特定分野について専門的な教育を行う高校に福祉を専門的に行う学科がほしいという御意見がございました。高校3年間で完結する教育ではなく、大学や専門学校との連携も射程に入れた教育システムがあってもいいのではないかという、大変貴重な御意見をいただき、後ほど御説明する登米地区に開設予定の総合産業高校に活かされたということでございます。さらに資料2-1に平成18年2月にいただいた「時代の変化に対応した専門高校のあり方について」の答申も準備しました。その7ページにまとめてある内容を踏まえ、平成20年度の産業教育審議会で更に審議いただき、資料2-2の提言がなされたという流れになっております。資料は後ほど御覧いただきたいと思っております。

②の県内の専門高校・専門学科の状況について御説明させていただきます。

先ほどの資料3-1、5ページになります。平成元年から5年ごとの生徒数の推移についてデータを載せています。平成元年に対する平成20年の県全体の生徒数の割合は70.4%になっております。減少率の大きい順に家庭科が平成元年度の生徒数に対して平成20年度が33.0%、農業が48.3%、看護が48.4%、商業が48.9%、水産が52.8%、工業が80.7%という割合になっております。次に6ページの専門高校の学科改編状況についてですが、平成18年度からの状況を御報告します。平成18年度には柴田農林高校と上沼高校において、工業系の土木科及び環境土木科を募集停止としております。米山高校と石巻商業高校は学科改編をしており、石巻商業高校は3つの小学科を一つにまとめております。平成20年度は白石

工業高校の機械科でコース制を廃止しております。田尻高校と飯野川高校が募集停止になりました。平成21年度には中新田高校の商業科がなくなり、普通科の中のコース制となりました。鶯沢工業高校が募集停止になりましたが、岩ヶ崎高校の鶯沢校舎として創造工学科が新たに設置されました。平成22年度は塩釜高校の商業科が学科名を変更、黒川高校の農業経営科が募集停止となり、電子機械科を機械科と電子工学科に改編、さらに環境技術科を設置しました。河南高校が総合学科に改編となり、石巻北高と校名変更となりました。来年度は一迫商業高校の会計科と米谷工業高校の自動車科が募集停止となります。

次に7ページを御覧下さい。平成23年度における専門高校における設置学科は、農業科8校、家庭科3校、水産科2校、看護科1校、工業科11校、商業科10校、総合学科7校となっております。以上①と②の説明を終わります。

議長：続いて③の新県立高校将来構想・第1次実施計画についてお願いします。

教育企画室：③新県立高校将来構想及び第1次実施計画について御説明いたします。資料の4、5、6になります。資料5に基づいて説明します。

まず、将来構想策定の趣旨についてであります。パンフレットの一番下、枠で囲んでいるところを御覧下さい。1行目から2行目にかけて進路意識等の多様化、少子化という言葉が並んでいますが、高校を取り巻く大きな環境の変化といたしまして、高校進学率のアップによって多様な進路意識を持つ生徒が高校に入ることになったこと、少子化により生徒数の減少に直面せざるを得なくなったことがあげられます。

このような状況に対応する必要があるという考え方から、平成12年度に平成13年度からの10年間の計画期間といたします県立高校将来構想を策定したということになります。参考までにパンフレットの背表紙を御覧下さい。一番上に中学校卒業人数と公立高校学級数の推移が記載されていますが、グラフを見ていただきますと、御覧のとおり中卒者数は平成元年をピークに右肩下がりで推移しており、今後も継続する傾向にあると言えます。現在の県立高校将来構想期間であります平成13年から22年までの10年間の流れで見ましても、生徒数は実に約22%減少しているということでございます。この傾向は今後しばらく続く見込みでして、また同時に社会においてもグローバル化・情報化が一層進展しまして、高校教育を取り巻く環境が変化しています。

今年の3月になりますが、平成23年度から32年度までの10年間の新たな県立高校将来構想を策定いたしました。これまでの将来構想は、高校のあり方をメインに枠組みづくりに特化したまとめ方を行いました。パンフレットの中央部分にありますように、新たな構想ではより生徒自身に着眼した視点から、高校教育における人づくりの方向性といたしまして、主体的に生き抜く力の育成と人と関わる力の育成に焦点

を当てながら最終的には未来を担う人づくりを推進していくことを目的としています。主体的に生き抜く力の育成に向けましては、本格的な知識基盤社会の到来のなかで基礎となる知識や技能の修得、そしてそれを活用していく力を身に付けさせることが重要であるとしています。さらに、基礎基本となる知識の定着だけではなく社会における自分の役割を認識して自立的に行動できる知性の育成も大切なポイントであると示しています。もう一つの人と関わる力の育成に向けましては、変化の激しい時代、コミュニケーション能力や協調性、柔軟性など社会の中で、より良い人間関係を築いていく力を育成していくことをポイントとしております。

このような力を育成するための高校教育改革の取組の方向性としましては、次のページに4つの項目を掲げて、この4項目に重点を置いて次代を担う人づくりに取り組むとしております。それぞれの項目ごとに具体的な取組みの方向性を示しております。例えば、1の学力向上につきましては、基礎基本となる知識の定着や知識を活用した課題解決力の育成、人間関係を構築する力の育成、学校外の教育資源の活用に取り組んでいくということでございます。また、2のキャリア教育の充実については勤労観・職業観の育成と変化に対応できる基本姿勢の育成に取り組むということにしています。

なお、キャリア教育の充実のところに「志教育」の推進と記載されておりますが、これは今年の3月に策定されました宮城県教育振興基本計画の中に示されたものであります。後ほど詳細に説明がありますが、「志教育」とは、児童生徒が自分の適性等と社会の中で果たすべき役割を自覚することを通して、学ぶことの意味の理解を促しながら勤労観や職業観を目指すものと書いてあります。端的に言うならば広い意味でのキャリア教育と御理解いただければと思います。こうした取組を通して人づくりに着目した高校教育改革に取り組んでいくことのほか、新将来構想におきましては再編整備の方針についても示しております。

中卒者数は今後も継続して減少し、高校においては学級減は避けられない状況にあり、中でも学科のあり方につきましては普通教育及び専門教育を学べる基本的な体制を確保し、その上で本県の産業構造や就業状況の変化、各地区の学校配置、産業構造の違いなどを踏まえること、そして社会の目標を踏まえた特色ある専門教育、生徒の実態に対応した学科・課程に配慮するとしています。

新将来構想では、学校配置の考え方、地区別の県立高校再編の方向性についても示しておりますが、第1次実施計画につきましては、平成23年度から27年度までの高校配置計画を含む高校教育改革の具体的取組を示したものであります。

その主な内容の1つめは、これまで仙台一高に併設されてきました通信制課程を平成24年4月に名取市下増田地区に独立校化すること、2つめは産業の高度化・多様化に対応した人材が求められているといったことを踏まえまして、新しいタイプの学校として登米地区に農業系、工業系、商業系、福祉系の4つの専門学科で構成する総合産業高校を平成27年4月に設置すること、3つめとして石巻地区の中卒者数の減少に

対応するため、平成24年4月に女川高校を募集停止にするとしたものです。
以上が、新県立高校将来構想と第1次実施計画でございます。

議長：続いて④の登米地区総合産業高校について御説明をお願いします。

改革推進班：④の登米地区の総合産業高校について御説明いたします。資料は9, 10ページ、資料の7-1, 7-2になります。

登米地区における総合産業高校の設置につきましては、今年3月の新県立高校将来構想の第1次実施計画で正式に公表させていただいておりますが、その後、早速4月から、どういう学校にするのかということで具体的な検討を進めております。検討は関係する各高校、あるいはPTA・同窓会の方々、さらに登米市の関係者の方々といういろいろ協議をしながら準備を進めております。細かい部分はまだまだこれからという段階でございますが、資料7に現時点での基本的な方向性についてまとめておりますのでこちらを御覧いただきたいと思います。

まず、資料の一番上の①・②・③としている部分ですが、総合産業高校の特色を集約すると、この3点であると考えています。まず1つ目は、県内初の総合産業高校ということで、産業のスペシャリストの養成という点、2つ目として福祉系学科の新設による地域の高齢化への対応という点、3つ目として地域との強いパートナーシップによる、地域産業発展への貢献という部分です。今回の総合産業高校は、今まで以上に地域に密着した学校にしていきたいと考えています。地域に密着と申しますのは、いわゆる地域に溶け込むといったような一般的な意味よりもう少し踏み込みまして、例えば在学中の実習であるとか、あるいは卒業後の就職などに関して、地域と強力な連携体制を築きたい、あるいは学校の存在自体を媒介にして、生徒・教師と地元の住民の方、企業とがしっかりとバインドする形で、地域の課題を共同で解決していけるような新しい仕組み作りができないか、あるいは学校の教育の中味自体、内容自体に地域の特性の反映ができないかといったイメージで考えております。登米地区の地域特性という部分ですが、御覧いただいた①, ②, ③のすぐ下に5行ほど書いてありますが、登米地区を見たときに世界的な伊豆沼・内沼の存在、あるいは環境保全米づくりが県内一盛んであるといった部分もありますので、地域的に「環境」というキーワードが大きいと認識しています。それから「自動車関連産業」や「高齢化」といった部分もキーワードになると考えています。そうしたことを前提にいたしまして、今回の総合産業高校のコンセプトとして、「地域・環境・福祉に貢献できる志を持った産業人の育成」といった形で掲げています。このコンセプトの下で各学科のねらいですが、御覧いただけるとわかるかと思いますが、環境への配慮でありますとか、地域への貢献、地区の活性化といった視点を重視して各学科のねらいを設定しています。さらに、高度化する自動車製造業への対応といった部分、あるいは高齢化への対応といった部

分もねらいの中に盛り込む形にしています。これら各学科のねらいを実現するための具体の策として、独自のカリキュラムの設定といった事や、次の10ページになりますが、実践的な教育の重視、大学との産学官連携の取組、さらに学科間連携による教育効果の拡大、といったような様々な取組を展開していきたいと考えております。学科間連携につきましては、イメージ図を真ん中に大きく載せていますが、四隅にあります農業系・工業系・商業系・福祉系、それら各系統がしっかり連携しながら、図の中心に例示しておりますいろいろなプロジェクトを実施する形で教育効果を高めていきたい。並行して、「プロジェクト」の上部にあります市が地域の産業振興施策との連携、あるいは大学との連携にも取り組んでいくイメージであります。なお、図のすぐ下に『専攻科の新たな設置については今後ともさらに検討を続ける』とありますが、地元の登米市からは福祉系または工業系で専攻科を是非設置してもらえないかという御要望もいただいておりますので、今後、設置の可否も含めて検討していきたいという段階です。

資料一番下に、地域との強いパートナーシップを載せていますが、そちらが先ほど御説明しました地域密着という部分のイメージを図化したものでございます。研修や卒業後の就職での受入体制、行き来の体制、地域の課題を共同で解決していけるようなものを考えております。やや駆け足となりましたが総合産業高校に関する説明は以上になります。よろしく申し上げます。

議長：ありがとうございました。報告を進めてまいりたいと思いますので、高校教育改革の成果に関する検証について報告願います。

教育企画室：それでは⑤について説明いたします。資料8をご覧ください。高校教育改革の成果に関する検証についてですが、先ほど説明しました県立高校将来構想で実施しました施策に関しての検証ということでございます。

これまでの経緯ですが、新県立高校将来構想が今年3月に策定されました。その中では将来構想の推進に向けて、特に高校教育改革の各取組を確実に検証しながら適正に進行管理することが明記されています。これを受けて県の教育委員会では、今年8月に第2期の将来構想審議会に対しまして、高校教育改革の検証に関して諮問を行いました。諮問内容は、一つは高校教育改革に関する施策の成果及び課題の検証、もう一つは高校教育行政及び学校現場の現状把握手法の確立に向けた調査です。将来構想審議会では諮問を受けまして、9月に検証テーマが設定されました。ご覧のとおり①から③の3つが検証テーマとなりました。(1)の普通教育及び専門教育の体制整備については、これまでの将来構想の期間において魅力ある学校づくりの一つといたしまして、総合学科、昼夜間定時制、学科改編などを行ってまいりました。施策の結果として本県の教育体制が様々な生徒の能力や適性、興味関心にうまくマッチしているか

どうか、うまく機能しているかどうかについて、特に学力が中位の生徒の受け皿の部分を中心に検証していくという方向で現在議論がなされているところです。また③の全県一学区については、今年度新たにスタートしましたが、現在、高等学校入学者選抜審議会で行うということになっているので、将来構想審議会では経過を見守るということになります。検証テーマが設定され、具体の作業は審議会の検証部会で行っています。

②の検証部会における作業についてですが、(1)の検証の順序は、①の普通教育と専門教育の体制整備に着手し、その後②の男女共学化、③全県一学区の順で検証していくことになりました。具体の検証の時期は、①の普通教育及び専門教育の体制については今年度内をできれば目標に検証作業を進めることとなります。当面の見通しとしては、①については、来年3月までに部会として、できれば検証報告書を取りまとめて5月には審議会答申を頂戴したいというスケジュール見込みで考えています。

なお、将来構想審議会の答申内容の方向性になりますが、これまでの施策の成果が何であったのか、課題が何であったのかを浮き彫りにすることであり、課題解決に向けた方向性までを提示するまでになります。したがって、方針としては〇〇学科は〇〇学科に改編すべきといったところまで、具体の学科の在り方まで踏み込む内容が提出されるものではないと考えており、できれば今後、この産業教育審議会の中でアドバイス、御意見をお示しいただければと考えております。以上です。

議 長：質問があるかと思いますが、6番目の志教育について説明をお願いします。

事務局：資料は10になります。先ほどの教育企画室からの説明にありました、宮城県教育振興基本計画の重点的取組の一つに、小・中・高等学校を通した志教育の推進がございます。その具体として「みやぎの志教育プラン」が策定されていますので簡単に説明します。パンフレットの1ページ、左側の資料1・資料2・資料3のデータがありましてその上に、宮城の子どもたちの状況と課題がまとめてあります。資料からわかりますとおり、宮城の子どもたちは人の役に立つ人になりたい、卒業まで進路希望を達成したいと思っています。しかし、将来の夢や希望を持っている一方で、自分に自信が持てず難しいことでも失敗を恐れず挑戦することに消極的な様子が見受けられます。また、小中高校生とも、学ぶ意義や学習目的を十分に理解していない傾向が見受けられ、高卒後の離職率も高い現状があるということです。2ページにはプラン策定委員から夢を育み、志を高めるための提言がなされています。また、県民意識調査から、県民が願う子どもたちの将来像も記載してありますが、プラン策定委員会の提言と多く共通部分が見受けられます。

これらの課題や提言から小・中・高等学校の12年間を通じた志教育により、人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき役割を考えさせな

がら将来の社会人としてのより良い生き方を主体的に求めさせる取組みを推進していくこととしました。志教育の実施に当たっては、「かかわる・もとめる・はたす」という3つの視点から、様々な奉仕活動や職場での体験をさせるとともに、すべての教科の学習等を通して、学校で学ぶ知識と社会や職業との関連を理解させて、自ら学び自ら考える態度を養い、また集団や組織において他者との多様な人間関係を築きながら、自ら役割を果たす体験をさせてその活動を通じて得られる自己理解、他者理解の深化、充足感や自己有用感を契機として自らの在り方生き方をより明確に考えられるようにしていきたいということです。

3ページには小・中・高等学校ごとに、志教育の観点から育みたい姿を示しております。4ページには今年度内に各学校で作成していただく全体計画の例が示してあります。各学校では、志教育の目標を定めて、かかわる・もとめる・はたすという3つの視点に基づき、これまで各学校で取り組んできている、キャリア教育や進路指導、あるいは総合的な学習の時間の指導内容について、見直しと改善を図り、また、道徳教育での目標も新たに加えながら、各学校の特色ある志教育全体計画を作成し、次年度以降、段階的に推進していくことにしております。

以上、簡単ですが志教育の説明となります。

議長：ただいまの志教育も含めて情報として6点ありました。これまでの報告事項について質問があればお願いします。

吉田委員：2点質問があります。1つは資料8についてですが、高校教育の成果に関する検証で、普通教育と専門教育の体制づくりについて検証されていくわけですが、就職などを前提として、普通科の生徒に対する職業教育の徹底、もしくは職業教育のできる範囲、専門高校から普通高校への支援といった面についての問題意識がありますが、どちらで議論されることになるのでしょうか？

もう1点は、登米地域の学校の話にありましたが、商業系のところで業を起こす人、起業家を育成しますと書いてあります。アントレプレナーみたいなイメージで業を起こす人を是非育成していきたいという、志高いコメントで書いてありますが、一般的に高校時代にそこまで考えた方がいいのかどうか、観光振興を担えるような人材を育成したいという意味でおっしゃっているのか、ビジネス感覚の豊かな方を育成したいという意見もあるかと思いますが、ゴシックになっているところを見ると相当意識されて起業家を育成したいという思いが伝わってくるが、その点はいかがなものでしょうか？

教育企画室：1点目についてお答えします。普通科において職業教育をどう考えているのか、どちらの審議会で検証するのかということでございます。我々のは問題意識とし

ましては、普通科における生徒の意識の多様性という点格好は良いのですが、目的意識が散漫という点、極端にいい生徒もいない生徒もいますので、普通科高校における、今述べたような生徒に対する対応策につきまして、高校教育改革の検証部会のほうで、客観的なデータを拾い上げながらどういった課題があるのかを抽出し、あるべき方向性なども示していければと考えております。したがって、将来構想の検証部会で対応していきたい、と考えております。

吉田委員：中教審の中に、普通高校に対する職業教育をどのように支援し、カバーし、レベルをある程度上げていくのか、就職対策と書いてありますが、そのような指摘が5月の答申に出ておりますので、その点を踏まえて是非議論を深めていただければありがたいと思います。

議長：もう1点は、アントレプレナーを育てるのかということですが。

改革推進班：登米の総合産業高校についてですが、「起業家の育成」ということでゴシックで書いています。これは、できればこれで目指したいと考えています。ただ、これを地元の方や関係する方にお示ししても、確かに、高校の段階でどこまでできるのか、どこまでするのかという部分と、現実でどこまでできるのかという疑問も確かに呈されています。もともと、箱囲みで書いております、「産業のスペシャリスト」という言い方に関しても、果たして高校の段階でスペシャリストという段階まで到達できるのかという疑問も呈されておりますが、今、具体のカリキュラムを組んでいく段階で、できるだけその段階まで近づけるように、完全な実現ができるかどうかはともかく、産業のスペシャリストの育成、あるいは本当の起業家の育成までなんとか行ければいいかなと考えておりますので、それでご理解いただければと思います。

議長：よろしいですか？

これはむずかしいですね。高校のレベルとおっしゃいますが、大学のレベルでもなかなか起業家を育成するというのは大変で、宮城大学でも今まで十何回生を出しておりますが、起業家になったのは3～4人しかいないので卒業してすぐは、どこかに就職してからというものはおりますが、確かに非常にハードルの高いことだと思います。どのようにしていくかということをおよび宮城県の先生達がどのように取り組むのか、ひとつ見ものであると話ししているところです。

橋本委員：普通科と専門学科を検証するという点ですが、その中で、説明いただいた将来構想をめぐって見ますと、普通高校からでも結構就職しているということ、学校によりまして、逆に専門高校からも進学しているということで、高校でどこまでするか

ということですが、進学率は全国的に大学等ということで専門学校も含めていただいでありがたいと思っています。進学率は70%強ぐらいまでになっていると思いますので、専門高校・普通高校合わせて両方から相互乗り入れしているので合わせてご検討願いたいと思います。

あともう一つよろしいでしょうか。私は専門学校の代表ですので話しますが、専門学校は学校教育法の第1条に入っていない学校になっております。格差があるのでそれが私たちのこれまでの何とか1条校にしなければならないということの原点であります。中教審の中にキャリア教育・職業教育特別部会というのがありまして、これから答申がされるということですがその中で、第1条の学校の中に実践的な教育に特化した枠組み、新しい学校種を作ることを検討しているという答申がなされると聞いております。つまり、現在では高等学校までは専門高校がありますが、大学になるといっぺんに職業も学術的な研究も全てひっくるめるといふ形になり、それを二本立てで高等教育までしようという動きになるわけで、恐らくは3年、4年後には具体化していくことを期待しております。ゆくゆくはそのような事も踏まえてご検討いただけるとありがたいと思っています。

議 長：それは、高卒以降の教育機関のあり方の再編も射程に入れながら、公教育について考えていくべきということのお話ですね。

橋本委員：そうですね。職業実践的な教育を行う高等教育機関が、いずれ1条校の中に大学以外にもできる見通しで、将来的に法律化される可能性もあるということです。

議 長：その辺りも念頭に入れて検証をお願いするということにしたいと思います。それでよろしければ、5の議事に入りたいと思います。

議 長：取りかかりもないとなかなか進みませんので、新県立高校将来構想のパンフレットは実に良くできていると思います。キャリア教育の充実ということについて、勤労観・職業観の育成、これは産業教育審議会で話すのであれば良く理解できるのですが、普通高校でもするということですか？

教育企画室：人づくりの観点でどのように対応するかということですので、普通高校・専門高校問わず、すべての高校に共通した考え方で対応していきたい。ポイントとしては、教育振興基本計画の中で、志教育という考え方を打ち出しました。さきほど委員の方から、目的意識が足りないのではという指摘がありました。学校の間でももちろん必要ですが、生徒に対して職業の意識付け、社会に出たときにどのように自分が生きていくのかという志がないと、その後の目的意識も希薄になるのではないかと

ことで考え出した概念であり、こういったものをセットで組み立て、また生徒に対してそういった教育を促すことで相対的に目的意識を強めていってもらおうというものです。

議長：志教育というのは宮城県の特徴ある教育方針と考えてよろしいのでしょうか。

教育企画室：はい。宮城県のオリジナルであると考えて良いです。

議長：結構なことだと思っております。生徒が入ってきて、とかく一昔前は、あなたはいったいどういう人間なのかと、自分探しをさせると、自分の中に内閉化してしまうので、社会との関係で自分が何ができるのかと考えさせた方がはるかによいくち思ってきましたが、志教育はそういう意味で自分が社会に対して何をなせるのかということや、他の仲間とどういうコミュニケーションができるのか、キャリア教育も勤労観・職業観を育成するのによいくち思っています。

委員の方々いかがでしょうか？

本図委員：志教育は大変すばらしいと思います。キャリア教育と言ってもいいと思います。それをさらにわかりやすくしていると思います。このパンフレットも大変わかりやすいと思います。その中でちょっと気になるのが、1ページの離職率ですが、これを隠さず載せていただいておりますが、1年目の離職率から3年たって減ってきているが、その辺りを県としてはどのように分析されてきていて、これはこれでいいとは思えないのですが、だから志教育なのですが、どういう分析を通して具体に対応されていくようにお考えなのか教えていただきたい。

議長：離職率をあえてここに出した勇氣はすばらしいと思いますが、いかがですか？

高校教育課長：吉田委員の方がより詳しいと思います。全国的に1年目、2年目、3年目ということで離職率が5割を超えているのではないかという話もあります。最近はやや下がってきています。それは、キャリア教育などが少しずつ充実が図られてきているからだと言えます。第1点目は、ミスマッチ、どんな仕事についていくのか、高校1年の段階から少しずつ職業観を育成していかないと、勤めてみて初めて自分に合わないといった投げ出すこともあります。したがって、誰も最初から適性の合う仕事などない、入ってみてそこから少しずつ覚えていって仕事の範囲を拓げていくのだというところをまずきちんとしなければならぬと思っています。離職をして、国によっては仕事を変えていくことがキャリアアップにつながるという発想がないとも言えないのですが、まずは「石の上にも三年」というように基礎を固めて、そこからどん

なことを更にできるか、と仕事の開発にもつながるのでそのところが県としても大きな課題と考えています。ハローワークや経済商工観光部と連携したりして、ハローワークや中小企業の団体とのプログラムが始まったばかりであり、その辺りの成果をデータの蓄積も踏まえながら対策を立てていくところにさしかかっているところです。

吉田委員：秋田県は離職調査をしており、結果を覚えている範囲でお話ししますと、まず男女別では女子の方が10ポイントほど高い、最近下がってきたのは介護の職場などでは辞める人が極端に減りました。景気が悪いからで、以前は思い通りの仕事でない、飲食店に働いたために不規則な勤務時間を強いられるために友達と会えない等を苦痛にして辞める事例が多いという分析でありました。秋田県の結論では、宮城県のやろうとしている志教育・キャリア教育をキッチリすることが意識醸成の面で大切である。就職の際のミスマッチは情報提供のミスマッチもあるであろう。職場が、就業構造がどうなっているかを知らずに学校を卒業しただけで就職できると勘違いしているような学生や保護者が中にはいて、そこを埋めるような情報の提供、理解と納得ができる仕組みがあればというまとめをしていました。

議 長：高校では就職相談員のような方はいますか？

高校教育課長：キャリアアドバイザーという形と、就職関係の支援教員を配置しています。支援教員は9名、キャリアアドバイザーはすべての学校に配置しています。ただ、緊急雇用対策であり、1年しか配置できないということで課題をかかえています。昨年からの配置が始まり、今年は全校配置をしております。

議 長：宮城県の就職率が低いことに対してどのような対策を取ったらいいのかニュースになっていますが、少し前進した体制ができつつある印象がありますね。

白石委員：本校、小牛田農林高校では昨年まで3年間文科省の指定で「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究」をしました。その折りに、本校卒業して1年半後ぐらいの就職者・進学者を対象に、電話による聞き取りやアンケート形式のデータをまとめた結果、手前味噌かもしれませんが定着率は良かったということでございます。卒業生の意見では、在学中に体系的な進路学習を経験したことにより、在学中にしっかりと仕事を選び、就職先の職場でも自信を持って仕事できていたことが大きな要因であったというデータが得られました。また、本校農業教員が文科省の研修に参加し、東大本田由紀教授の講義の中で、農業高校卒業生は普通高校卒業生などと比較し離職率が低く、在学中にそういった勉強を丁寧に教えていただいた、あるいは経験をしたということが結果として結び付いているという研修報告を受けていま

す。本校にあつては、「産業社会と人間」という1年次の導入科目を通して自己の在り方、生き方など将来の進路について指導している総合学科と農業教科内で指導している農業技術科を比べると、その差が歴然とデータに出ておりました。

議 長：やはりキャリア開発をキッチリ丁寧にすることが大切だということですね。

橋本委員：専門高校と普通高校とでそれぞれ就職をしている生徒について、どちらの離職率などについても調べているとは思いますが、将来の対策なども見えてくると思います。普通高校に入る時点で、卒業後には就職を考えている生徒について、普通高校でどれだけのことができるかわかりませんが、中学校との連携で専門高校を薦めることは難しいかもしれませんが、中学校の時点からの指導にも問題もあると思います。調査の結果はあるのでしょうか？

議 長：専門高校と普通高校の離職率を含めての調査結果はあるのでしょうか？

高校教育課長：離職率について学科ごとに調べたデータは現時点ではありませんが、そこがまさに課題で、調査の手法を確立しないとデータが取れません。国の方で、卒業後3年は新卒扱いにしないという話が出てきており、前々から3年離職率は課題意識はありましたので、どうしたら調べられるか、どのようにリサーチができるかを含めて検討していかなければデータは取れないし、すべてをつかむことができないかもしれない中で調査の信用性も課題になりますが、それぞれの大切な人生なので、どこまで応援、支援ができるかが大切であります。今後の課題にしたいと思います。

また、特に普通科高校での職業教育は以前から課題であり、想像するに普通科の方が職業に対して真っ白であるために入ってからしつけやすい、鍛えやすいとおっしゃる方もいらっしゃるし、むしろ基礎をしっかりとってきてくれれば社員教育で鍛えるという企業もあるし、基本的な挨拶礼儀から始まり、基本的な社会人としての資質は身に付けてくださいというところや、ある程度専門的な知識を身につけておかないと使いものにならないというところもあります。すべてを普通科の中に求めることは難しいかと思いますが、少なくともキャリア教育、志教育を進める上での到達ポイントは、社会にどの時点でも、大学生になってその後出ても、いずれ職業に就くだろうという視点で普通科であってもきちんと組み立てをしなければならないと思います。その中で、インターンシップなど地域の協力をいただきながら取り組んでいる普通科の高校も結構多くありまして、その辺の取組が多く普通科にも広まっていくことも期待しながら、誘導していくという組み立てを考えていきたい。インターンシップは、普通科ではあまり着手されていませんが、キャリア教育をやっていないということではなく、総合学習やLHRなど、あるいは地域の職業人を招いての講話であるとか、

いろいろなチャンネルを使って社会人との交流、ふれあいということはこれまで以上に進むであろうと、見直しを図っていくことになると思いますので、そのところも含めて大きな課題であると考えております。

議 長：残念ながらデータはないということです。確かに後追い調査は難しいところですよ。他にいかがですか？

間庭委員：我々も関心のあることで、即効性のないものですからじっくりと構造的に取り組むしかない。就職する本人はもちろんですが、家庭、親、企業、教育、学校関係、そのような関係者みんなの共通の課題意識と取組がないと構造的になかなか改善できないという根深いテーマであると思います。やはり、少しでもデータで構造的なものに切り込んで、どういう構造改善をしていくかという方策が長い目で見て必要なかということ是不可欠だと思う。そういう意味で、普通科における就職・進学 of 比率は就職が少ないのですが、将来どう生きるかということを考える上で、何らかの特色あるコースは有効なものであると思いました。これは必ずしも職業高校とは違う位置付けでやれるかなど、ご紹介があってイメージがだいぶ湧きました。また、環境や新しいテーマについて、進学などを想定しつつもこのようなコースは大いにありだと思いました。大学の先生とお話する機会があるときに、普通高校で進学の勉強をしてくる生徒に対しては、将来の意識を持って、いろいろなテーマを持って勉強する機会を与えたい、できるだけ若いうちにそのような機会を与えられればありがたいと、特に工学系の先生からそうしたいという話があります。そういったことによって将来の自分がどのように生きるかという志教育に関わるのですが、進学するのでも就職するのであっても、在学中にいろんな体験をしたり、考える機会を刺激としてあることによって、未来を担う人づくり「新県立高校将来構想」にあるようなものは、内実として形成していけるのではないかなと思います。ミスマッチは、就職する本人が一番不本意だと思いますが、企業側にとっても非常に損失です。特に3年以内の離職が5割ということになると、投資をしてこれからは大いに活躍していただきたいという矢先ですので、皆にとって不幸なことです。宮城県をあげてみんなで取り組むべき重要なテーマであると思います。

議 長：工業高校から来た生徒の方が離職率が低くて、大学から来た学生のほうが離職率が高いということで、大学ではあまりキャリア教育をしていなかったということ、今まで職業教育をきっちりしていなかったということで、宮城県の県立高校将来構想では高校全体としてキャリア教育の充実という話ですので、結果が良くなると良いと思います。

上野委員：大変すばらしい構想だと思いました。この構想の中にいろいろな施策があるわけですが、目標値がどの辺にあるのか、施策がうまくいったとき、離職率や就職率、地域の満足度、先生方や親の満足度などに影響すると思うので、施策の結果が数値的に、数値がすべてではありませんが、これからの実施計画に落とし込まれると良いと思います。どのようにお考えでしょうか？

議長：これから検証する際の項目は、できるだけ客観的なデータで次にステップを踏んでいくものであると思いますが、データを作るのは大変だと思うが、その辺りでお考えがあればお願いしたい。

教育企画室：今の部分が検証部会で検討しているところです。教育の場面では具体的に数値にすることは難しく、システムとしてはインプットに対してアウトカムをどのように拾い上げるかを議論しております。しかし、一点に絞ることは難しいことで、いろんな視点からアウトカムを拾い上げることでトータルとして見ていただくような仕掛けができないかというところで作業をしております。まさに検証システムが緒についたばかりであり、今回この検証方法が確立されれば、今後の新たな将来構想を進めていく上で同じような方法で検証できると考えております。

議長：行政評価の仕方については今から10年くらい盛んに言われてきました。事業ごとに行政評価を各部署で行ってきた経緯がありますが、うまくいっているところといていないところがあります。とはいえ一つ一つにPDCAサイクルが回るようなことが、次には良い評価のシステムが出てくることを期待しています。

どちらかという、議論がキャリア教育やインターンシップに対してになってきていますが、専門教育に関してはどうですか

本図委員：専門高校のあり方ということで、登米の産業高校の事例は大変良くできていると思います。もしかしたら、総論はよいが各論ではということかと思いますが、今のところすばらしいと思います。産業教育を行う学校こそ、学校サポーターのような地域のシンボルになるようなものになってほしい。普通高校ではせいぜい同窓会のようなあまり機能しないものにしかありません。産業教育であればベガルタ並みにサポーターという仕組みができてほしいと思います。地域に根ざした、さきほどの岡山の例では、数千人が学校デパートに買いに来ると言うことで、宮城県でもこのようなことがあれば生徒の自己有用性につながると思います。学校サポーターの形成を目指していけると良いかと考えます。

高校教育課長：今の話に関連して、登米地区では本年度から基本課題検討委員会として地

域のいろいろな方々，学校関係者・行政・産業界から来ていただいて協議会方式で議論をしていただいております。今後このような構想が具体的に実現できるように，学校だけではなかなか難しいので，総合力で地域をあげてやっていただくということで，12月あたりから地域の産業界のニーズ把握ということを始めるということになっております。意見聴取会ではいろいろな話をいただいておりますが，具体的に地域に入り，それが一つのスタッフ・チームになって，協議会方式で将来にわたってずっと学校を支えていくことを考えています。逆に生徒たちが課題意識を持って，いろいろな地域の課題を解決するようなことで地域に出て行くというように，相互に行き来するという含めて強いパートナーシップを形成するというイメージで進んでおります。学校づくりに地域と一緒にやっていただくということで，ベガルタ並みにできればよいと思います。

間庭委員：登米の総合産業高校は大変いいなと思うことの一つに，農商工連携とありますが，普通，学校は縦割りで，個別には横割りもありますが，登米の場合は混在しているということで一つ一つの系統が生かされると同時に学校の中で横断的につながっているということで，社会の変化に新たに組みやすいと思うと同時に，これを汎用的に考えれば県内にいろいろな専門高校がありますので，横のつながり，例えば農業と商業，水産と工業がお互いに手をつなぐことによって，自分たちの領域だけではない他産業のつながり連携が，学習体験できるようなことを視野に入れていただければと思います。登米は先端に行く可能性がありますので，是非意識してやっていただくとありがたいと思います。

吉田委員：せっかくの機会なので，3つ話したいと考えておりましたが，1つだけ紹介します。前向きに宮城県の教育委員会はチャレンジしていると思います。内外に評判を呼んでおり，例えば名古屋のコーディネーターは志のネーミングがわかりやすく良いと言われております。大阪や京都からも仙台地区を中心にキャリア教育の積み重ねはよいと言われております。すごく注目されている地区であるということを誇りに思っていてやっていって欲しいと感じているところです。それを前提として少し要望も話します。

職業教育のコンテンツの話ですが，専門学科・専門高校の形を作ることはもちろん大事ですが，コンテンツを良くする必要があります。職業教育の内容として是非注目してほしいのは，進路指導です。進路指導の強化・重要性をもっと前面に出していただきたいと思っております。中教審の中味にも書いてありますが，進路指導のねらいはキャリア教育の目指すところとほぼ同じ，と書いてあります。これは，イコール志教育の目指すところとほぼ同じと捉え直せます。進路指導の実践をキャリア教育の視点から捉え直すべきではないかというように言われているわけです。やはり，9月の

内定重視にむけて意識を大幅にシフトして強化していくことが、宮城にとってはこの地域ならではの大事な課題ではないかと感じています。平成4年以降、宮城の求人は28,000人から4,000人に激減しました。就職はものすごく厳しい時代になっています。だけれども、昔ながらの日本的な高卒の就職斡旋システム、選抜システムというのがやはり先生の間とか、キャリアアドバイザーを含めて担当されている方の中には、まだまだ習慣、慣行、意識として残っているのではないかと感じているところがあるわけです。9月に内定を獲得しないと後が厳しいのに、未だに慣行が多いのではないかと思うという話を、キャリアアドバイザーや就職支援員の方から私の方に受けております。それはどういうことかといいますと、校内選考で成績を重視して、成績の順に校内選考を今だにしている。企業からのニーズに応じて選考すると、保護者からクレームが来るので、成績順で対外説明をするということです。一人一社制、指定校制などの、やり方のルールもこれだけ求人が減ってきたら、たくさんの求人から選べて多くの人にチャンスをまわすという発想ができなくなっています。1つ9月を受けて失敗したら、次はなかなかいいところにはありつけないわけです。そのときに一人一社制をいつまでもしていてよいのか。これは学校によって変えていかなければならないと思います。すごく特定の人気の企業が50人採用するといっているところに150人が受けたりしています。100人が泣いているわけです。こういうことを調整したらよいのではということ、平成13年の文部科学省の答申で出ているわけですが、宮城県は求人が多かったのでやらなくて済んでいました。いよいよ4,000人の求職者に対して4,000人の求人しかない厳しい時代に入ってくると、やはり厳しい他の県をまねていかなければならない。専門高校を見ても、農業高校や商業高校が、工業高校に比べると内定率がなかなか厳しいですね。これは中味としてどうなのかということ、是非お考えいただきたい。これが結局は、体験と内省で就職活動して成長していく子どもたちにとっては極めて大事な人間的成長に関わるわけですし、それがシステムティックに学校内外でなされていかないと、巡り巡っていくと富県戦略で人材を育成したいと思っている宮城県の全体の産業にも関わってくる話です。ひとり高校の先生だけが頑張ればよいという話ではなく、宮城県として頑張らなければならないことなのです。そのような意識改善も含めて進路指導を大事にしているんじゃないですか、地域の企業や関係機関との信頼関係構築に力を入れて行きませんか、就業体験が役に立ったよとか、高校時代にもっと職業講話や教育を受けたかったよ、というような卒業生の声に耳を傾けていくということが、極めて重要ではないかと思っています。職業教育の中味をコンテンツで語るときに、是非進路指導が大事だ、そのためのシステムティックな対応が大事だということ、会議して議論の中に入れていただきたいというのが要望です。

議 長：御意見ありがとうございました。

白石委員：生徒を預かっている学校のトップとして、地域の方々や関係機関との連携が大切であるとの御意見をいただきありがとうございました。常々言われているように就職試験において本県高校生が他県の高校生に負けているという状況がある中で、刺激的な言い方になるかもしれませんが、親が自分の子どもがどう育って欲しいかということ、もっと真剣に考えて欲しいと思います。簡単に離職するという現実、自分の中に何も無いから長続きしないのではないかと思います。高校卒業直前の18才位に、それを云々しようとしても難しいと思っています。人に負けたくない、この道で頑張っていくという根っこの部分を教えられるのは親ではないかと思っています。親が学校教育に関心を持ってもらい、周りの人たちとつながっていくという雰囲気作りを大切にしています。子供たちが生活している地域環境も、そんな雰囲気が必要ではないでしょうか。そうでないと、宮城県の高校生はこれからも全然変わらないと思います。周りがいっぱい援助してくれるのはいいのですが、親が自分の子どもをどう育てるか、生徒自身が自分はどう育っていったらいいのか、親子の関わりがもっと必要と思います。ですから、たとえ離職しても、それが自分のキャリアアップにつながればいいのではないかと思います。本日のこの冊子の中に共通して言えることは、人と関わりを持つということで、専門教育であろうが普通教育であろうが、それをこれからの教育のベースに据え、大切にしていきたいと思っています。日本の高校生・若者が元気を盛り返していくために、志教育というか、感動を得ることによって、こういう人間になりたいということを小学校から育てていくべきだと思います。

議長：志教育を熱く、ということだと思います。

議長：非常に勉強になった審議会だったと思います。普通高校・専門高校の区別があったとすれば、それは縮まったという印象を受けます。普通高校ではキャリア開発をしながら社会人としての人材育成を、あるいは地域での人材育成を目指すようになったと明記されていますし、さらには専門高校ではかつて産業の壁があったのですが、地域経済活性化のためには融合産業化が必要だといって、その一つが政策課題でした農商工連携とやってきた経緯がありますが、融合産業化が教育現場でも行われるようになってきたということは、非常に期待が持てるプロジェクトになるのかと思います。ただ、計画はいいけど、具体的にどこに繋がるのか、どこに続いていくかを見届けないといけないかもしれませんが、方向性が見えてきたということで、霧が晴れてきた感がありますし、就職率向上にも結び付く感じがあります。学校のサポーターの話もそうですが、私の大学でもサポーターをお願いしていた経緯がありますが、上手く機能しませんでした。どうしてかということ、どのように交流するかということもさることながら、事務局機能が薄かったんです。スタッフ機能があまり充実してなくてせっかくいいことを考えてもなかなか継続していかなかったというのが大きかったです。や

はり高校の中にそういった機能をビルトインしておかないとそこから運営できない。それぞれの科目の先生に頼るようだとその場限りになってしまうので、その辺りを上手くやって欲しいと思います。

本日は大変勉強になりありがとうございました。

以上で、審議を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

閉会の挨拶

高橋教育次長：本日は2時間大変熱心に御議論いただきました。本当に貴重な御意見を頂戴しました。これについては、今後の高校のあり方について検証する検証部会、あるいは登米の新しい総合産業高校を作る際の参考とさせていただきたいと思います。

本日はいろいろな形で、将来構想等についてご期待の意見も多く頂戴しました。計画は作るのが目的ではなくて、実行して成果を上げるのが目的ですので、計画を実行に移し、可能な限り数値化してその達成度を見ながら、しっかりと検証して進んでまいりたいと思います。

本年度は1回ですが、来年度は少なくとも4回、恐らく、もっと増えるかもしれませんが、来年度のこの審議会でさらに専門高校あるいは普通科の高校におけるキャリア教育をどうする、そのための科目をどうするかを含めて御意見をいただくかもしれませんが、幅広く今後も御指導いただけるとありがたいと思います

改めて感謝を申し上げて閉会の挨拶といたします。